

様式4の2

令和6年度 学校運営協議会評価報告書2

鳥取県立皆生養護学校
 学校長 山田知子

評 価 日	令和7年2月27日(木)	
評 価・提 言	学校の所見・改善策	
<p>1 重点目標の達成状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部・分掌の評価結果から、十分或いは概ね達成できていると評価。 現場で考えて活動し、自己評価としてほぼ十分達成がついているということはよかったと思う。 <p>2 目標達成のための取組結果について</p> <p><交流関係></p> <ul style="list-style-type: none"> 市内には幼稚園の時から他の園の幼児さんとの関わりがあり、健全な子たちとの交流がもたれている園もあるという話を聞くが、本校は、地域の学校との交流はやっているが、幼稚部はどうか。できれば近くの保育園との関わりがあるとよいと思う。 交流マップについては、交流の様子を絵や形にすることで、今までに関わってきたものが振り返れ、このようにいろいろな人との関わり・場所があるんだと思える。また、これにどんどん足していったりしていくといいのではないか。 <p><防災関係></p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉避難所については必要なものだと思うが、具体的にいつごろからの指定を目指しているのか。 災害時の備蓄については、個々に食形態や好みも違う。保護者が1～2日分の保存がきくもので準備して、教室などを保管場所にして預けておくなどのやり方もあると思う。学校が全部を把握してそろえても、食べれなかったらいけないし。学校も検討の余地はあるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、一人一人に応じた主体的な学びを実現する授業や教育活動の推進、安心・安全、信頼される学校体制の構築などに努める。 地域の保育園とは今のところは交流はしていないが、隣接しているひまわり分校の幼児さんとは毎年交流を続けている。いろいろな友達と関わる中で経験を広げたり社会性を育んだりという所は継続している。広げられるところはまた、検討していきたい。 交流マップは、皆生養護学校の周りにある行政施設や地域の方などどう関わっていけるかを考え作成したもの。ボッチャ、書道などの卒業生の活動、公民館民館での様々なサークル活動等、本校の子どもたちと接点をもってそうなところがある。学校にも来ていただき一緒に活動できるようにしたい。 現在のところ、期限は1年以内でと考えている。 皆生が目指しているのは、子どもたちが2日間帰れないとか、家庭から2日間迎えに来ることができないといった時に、まずは、本校の肢体不自由のある、医療的ケアのある子どもたちを、安全に守るという子どものための 	

3 具体目標の達成状況について

・地域の小・中学校、高校などと交流していることそのものは、インクルーシブでとてもいい。そこで交流から感じた子どもたちが、本校でやるイベントなどに、ボランティアとして参加するなどして循環してくるととてもいいと思う。

・ボランティアの方と障がいのある方の交流が広がっていくのはいい形だと思う。交流で行った先で、ボランティアの募集をかけてみていいのでは。ボランティアをされる生徒さんにとってもいい時間になると思う。

4 目標達成のために取り組んだ具体方策について

・情報共有や協働していく取り組みが功を奏しているアンケート結果が出ているが、そのために時間を多く使っていて、その分、子どもとの触れ合う時間が減っているという実感を先生たちは感じていることもあるのではないだろうか。

・誰かと出会って交流したり、そこで得る知識があったりし、そこで話すことで自己肯定感ができる。こうやって地域の方と交流しているのはいいことだと思う。

5 その他

<目指す子ども像に向けてできること>

・好きなことを見つけれることは、卒業後、社会人として地域で生活していけるスキルを身に付けることと同じように学校教育では大事なところだと思う。引き続き、好きなことを見つけることにトライしてほしい。

福祉避難所というところを出発点に考えている。

・子どもたちの実態に合わせて連携など考えていかななくてはいけないので、いろいろな情報を今集めているところ。それを基に保護者に紹介して、こちらも賞味期限など確認し預かることも考えている。

・以前、中学部でスポレク祭の時に、地域の中学生にボランティアで、器具の手伝いなどをしてもらい交流を回っていたことはある。今後、ボランティアについては検討していきたい。

・働き方という側面で行くと、今年度の取り組みとしては、教員の授業に出る時間数調整し、空き時間を増やす工夫をした。その時間に授業の準備、分掌の仕事などを行い、多少残業時間が減ったという実績はある。但し子どもとの触れ合いがどうだったのか、客観的に説明することは難しい面がある。

・公民館でも、ボッチャ、eスポーツをなどの交流を待っているところもある。公民館を交流の場としてまた活用してもらえれば

※令和7年度学校経営方針について

・来年度の学校経営方針に「子どもの豊かな可能性を開花させる」と書いてあるが、いい言葉だなと思う。

・交流学习について、交流の数についての説明があったが、その意図をもう少し教えてほしい。

⇒提案された方針については、委員全員承認

・回数を重ねると交流が深まっていくのはよくわかるが、それに伴う準備なども増えてくる。そのことを踏まえ、回数のことだけでなく、1回1回を大事にしていくことをより意識して交流学习を進めていきたい。